

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢をかたちに！ (*Scale up your Dream, and Build up your Future.*)

生徒が自らの進路に夢や希望を抱き、高い志を持ってその実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、地域社会に積極的に参画し貢献できる人材を育成する学校をめざします。

【生徒に育みたい力】

- 1 高校三年間の様々な体験的学習を通し、発見・驚き・感動を自信に繋げ、将来の夢を見定め実現していく力。
- 2 地域社会の発展に寄与するための高い志を持ち、自らを律し社会人として自立する力。[自立]
- 3 異文化や異なる価値観を理解し、身の周りから世界に至るまでの様々な人々と共生できる力。[共生]
- 4 ボランティア活動等の実践を通し、基本的人権を尊重し社会に奉仕貢献できる力。[友愛]

* 日根野高等学校 校訓「自立・共生・友愛」

2 中期的目標

1. 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む

(1) わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。

- ア、習熟度別授業（チャレンジ・スタンダード・ベーシック）と演習科目を充実させ、基礎学力及び受験学力の向上に資する授業を展開するとともに、補習・講習の講座充実を図る。
- イ、専門コースに合わせた体験授業（看護実習・保育実習）を取り入れるなど、泉佐野市や地元大学等と連携し、出前授業など外部人材の活用を推進する。
- ウ、主体的・対話的で深い学びを育むため、ICT等を活用しコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を開発する授業を研究・推進する。
- エ、語学教育、歴史教育や政治的教養、読書活動など多様で体験的な学習機会を通じ、異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。
- オ、学校教育自己診断アンケートや授業アンケートの項目に基づき、学校経営上の数値目標を設定する。

※専門コース・科目選択に関する生徒満足度。(H28:81% H29:85% H31:90%)

※ICTを活用した教材や授業への生徒満足度。(H28:94.8% H29:95% H31:96%)

※プレゼンテーション能力が十分に身についたとする生徒の肯定的回答率。(H28:66.2% H29:70% H31:90%)

※国公立大学・難関私立大学（関関同立・近・関西外大）進学者数。(H28:26名 H29:40名 H31:50名)

※児童保育系進学者数、看護医療系進学者数。(H28:児童保育系29名 看護医療系67名、H29:40名 75名、H31:50名 80名)

世界を相手に飛翔するグローバル人材、国際感覚を身に付けて地元地域社会に貢献するグローバル人材をバランスよく輩出する進学校をめざす。

※生徒の進路希望実現満足度。(H28:70.4% H29:75% H31:80%)

(2) 特色ある三つの専門コース(アドバンスト人文社会・子どもみらい・看護メディカル)を持つ普通科専門コース設置校として、新しい公立高校のカタチを探求する。

- ア、専門コース演習科目の内容充実を図る等より生徒のニーズに適合したカリキュラム編成を行う。
- イ、コースや科目選択時の生徒の満足度をあげるとともに、専門コースを選択する生徒の比率を40～50%を目途にバランス良くガイダンスする。
- ウ、もっと入りたい学校へ。本校のアドミッションポリシーを理解した入試志願者数の安定をめざす。

※ガイダンスに関する満足度。(H28:86.3% 以降、対前年増を継続させる。)

※入試志願者倍率。(H28:1.07倍 H29:1.1倍超 H31:1.1倍超)

(3) 進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。

- ア、志学・キャリア教育・人権教育・進路指導を系統的に結合した「ひねのプログラム」を活用し、生徒の学習意欲の向上を図る。
- イ、分野別進路説明会を開催するとともに「進路適性検査」などを活用し、進路選択のミスマッチを回避、自己の進路実現を図る。
- ウ、社会保険労務士や司法書士、民間経営者などの外部講師を招聘し、社会人としての心得など、身近な問題に触れ意識付けを図る。

※進路選択やキャリア教育に関する満足度。(H28:85.2% H29:88% H31:90%)

2. 社会道徳教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む

(1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道徳教育を推進する。

- ア、「いじめ防止基本方針」に従い、全校でいじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む。
- イ、基本的な生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る。

※命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった。(H28:76.9% H29:80% H31:85%)

※生徒一人当たり平均遅刻回数。(H28:4.7回 H29:4回 H31:3回)

(2) 急速に普及するスマートホンに係るネットと人権侵害理解についての取組みを推進する。

- ア、スマホの急激な普及によって起こっているインターネット上の諸問題に対し、情報と社会授業や各学年のHR等で学習し対応に取り組む。
- イ、保護者への啓蒙活動を研修等により継続するとともに、保護者と教職員とがさらに連携を深め、生徒一人ひとりを大切にしたい人権教育の充実を図る。

※保護者向け教育相談に関する満足度。(H28:84.5% H29:87% H31:90%)

(3) 部活動や各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図る。

- ア、生徒会やボランティア部を中心とした生徒主体による地域での社会貢献活動の取組みを推進する。
- イ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信・発表の場を多く設けることで、生徒が社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解する。

※部活動加入率。(H28:68% H29:75% H31:80%)

(4) 学校協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取り入れるとともに、HP等で学校の特色ある取組みを紹介する。

- ア、保護者向け学校教育自己診断における「教育活動」に対する満足度について、さらなる向上をめざす。

※教育活動に関する満足度。(H28:84.6% H29:87% H31:90%)

※教育情報についての提供努力満足度。(H28:83.9% H29:87% H31:90%)

3. 生徒理解を促進し相談体制を充実させる

(1) 全教職員が、障がいのある生徒への理解を深めつつ自立を支援する合理的配慮やケアを行い、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。

- ア、「生徒支援カード」をもとに、支援を要する生徒について個別の支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容の検討を行う。

(2) 生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と水平連携を行う。

- ア、体罰やハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談についても相談体制を構築し、生徒に周知徹底する。

※生徒向け教育相談に関する満足度。(H28:62.4% H29:65% H31:70%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む	<p>(1)わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。</p> <p>(2)特色ある三つの専門コースを持つ普通科専門コース設置高校として、新しい公立高校のカタチを探求する。</p> <p>(3)進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。</p>	<p>(1)ア、英・数・国・の教科において、チャレンジ・スタンダード・ベーシック 3 段階の習熟度別授業を設定し、また補習・講習講座を充実させていくことで、苦手科目の克服、得意科目の伸長を図る。 自習・講習・模試検定の「場」を拡大し、ひねのプログラム運用により生徒の自主学習の状況確認を継続する。</p> <p>イ、実践的な専門演習科目を確立し、地域連携強化のもと、外部人材のプロ精神と技術を体験的に学習する。</p> <p>ウ、ICT教材や設備を活用し、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の開発授業を研究・推進する。 反転学習やペアワーク等の導入を推進し、生徒の発話機会を拡大させ、コミュニケーション能力の向上に繋ぐ。</p> <p>エ、語学、歴史教育や政治的教養、読書活動など多様で体験的な学習機会を通じ異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。</p> <p>オ、学校教育自己診断アンケートや授業アンケートの項目に基づき、学校経営上の数値目標を設定する。</p> <p>(2)ア、専門コース演習科目の内容充実を図る等、生徒のニーズに適合したカリキュラム編成を行うとともに、それを的確にガイダンスし運用する管理者を設ける。</p> <p>イ、コース選択時の生徒満足度を上げるとともに、特色ある専門コース選択をする生徒へのガイダンスをバランス良く行う。</p> <p>ウ、もっと入りたい学校への魅力づくり。</p> <p>(3)ア、「ひねのプログラム」を活用し、生徒の学習意欲の向上を図る。</p> <p>イ+ウ、分野別進路説明会、社会保険労務士講座、司法書士講座等、外部人材を活用し、進路実現に繋げる。</p>	<p>(1)ア、「コース科目選択に関する授業への満足度」85%。(H28 81%) 家庭学習時間：2 時間(H28 66 分)</p> <p>イ、体験的学習延べ 80 時間超/全校を堅持する。(H28:83 時間)</p> <p>ウ、「ICT活用授業を行った教員への満足度」95%(H28 94.8%)。生徒の「プレゼンテーション能力向上満足度」70%。(H28 66.2%)</p> <p>エ、校内活動を底上げし、ビブリオバトル強豪校となり大阪大会優勝をめざす。海外の教育連携校や地元国際交流機関との連携を継続・強化する。</p> <p>オ、国公立大学・難関私立大学(関関同立+近+関西外)の進学者数 50 名。 児童保育系進学者数 50 名。看護医療系進学者数 50 名。進路希望実現満足度 75%(H28 70.4%) センター受験者数 20 名(H28 4 名)</p> <p>(2)ア、「ガイダンスに関する満足度」87%(H28 86.3%)</p> <p>イ、専門コース選択比率目標 40% アドバンスト人文社会 16%(H28 16%) 子どもみらい 16%(H28 10%) 看護医療 16%(H28 14%)</p> <p>ウ、入試志願倍率 1.1 倍超(H28 1.07)</p> <p>(3)「進路選択やキャリア教育に関する満足度」88%(H28 85.2%)</p> <p>「キャリアガイダンスセンター入室者数の拡大」12 名/稼働日。(H28 11 名) 泉佐野ロータークラブとの連携活動継続</p>	

<p>2 社会道徳教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む</p>	<p>(1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道徳教育を推進する。</p> <p>(2) 急速に普及するスマートフォンに係るネットと人権侵害理解についての取り組みを推進する。</p> <p>(3) 部活動や各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図る。</p> <p>(4) 学校協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取り入れるとともに、HP 等で学校の特色ある取り組みを紹介する。</p>	<p>(1) ア、「いじめ防止基本方針」に従い「いじめ防止対策委員会」を立ち上げ、年間計画に沿って実施する。 イ、基本的生活習慣の確立、挨拶励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成。</p> <p>(2) ア、インターネット上の諸問題(SNS 等)の事例を多く取り上げ、現実性をもたせながら指導する。情報と社会授業や各学年 HR 等で、その問題に対する取り組みを継続する。 イ、保護者への啓蒙活動も含め、家庭・学校間の連携を深めた人権教育を展開する。</p> <p>(3) ア、生徒会やボランティア部を中心とした生徒主体による地域での社会貢献活動の取り組みを推進する。 ・OSAKA あいさつ運動の実践 ・RUN 伴プロジェクト参加 イ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信発表の場を多く設けることで、社会貢献の意義や尊さを理解する。 ・吹奏学部 (小中大での訪問演奏・合同演奏、商業施設でのタイアップ演奏等) ・美術部 (商業施設や文化施設での展示発表) ・茶道部 (商業施設での国際交流連携) ・女子バレー部 (地域 33 中学校を対象とする日根野杯開催によるバレー・体育振興)</p> <p>(4) ア、保護者向け学校教育自己診断において、教育活動に対する満足度を更に向上させる。</p>	<p>(1) ア、生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があったに関する満足度」80%。(H28 76.9%) イ、平均遅刻回数 4 回(H28 4.7 回)</p> <p>(2) ア、様々なマイノリティへの理解を深める教育をし、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」とする満足度を 80%。(H28 76.9%) イ、保護者向け「教育相談に関する満足度」87%(H28 84.5%) ・保護者向け人権学習会の開催 1 回。(H28 1 回)</p> <p>(3) 部活動加入率 70%(H28 68%)</p> <p>(4) ア、保護者向け学校教育自己診断における「教育活動に関する満足度」87%(H28 84.6%) 「教育情報についての提供努力満足度」87%(H28 83.9%) 学校情報の一斉メール配信システムの有効利用。 学校自己診断・授業アンケートの分析方法の再検討。</p>	
<p>3 生徒理解を促進し相談体制を充実させる</p>	<p>(1) 全教職員が、障がいのある生徒への理解を深めつつ、自立を支援する合理的配慮やケアを行い、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。</p> <p>(2) 生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と水平連携を行う。</p>	<p>(1) ア、生徒支援カードをもとに、支援を要する生徒について支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容を検討する。</p> <p>(2) ア、体罰・ハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談体制を構築し、生徒に周知徹底する。</p>	<p>(1) (2) 生徒向け学校教育自己診断における「教育相談に関する満足度」65%(H28 62.4%)</p>	